

上越市創造行政研究所は、平成12年に設置された上越市役所の組織内シンクタンクです。当市のまちづくりを支援する調査研究機関として、人口データなどの分析や情報提供、フォーラムやワークショップの開催、調査研究による政策提言などを行っています。

Topic 01

未来のまちを考えるレゴ・ワークショップを開催



10月19日（土）、浦川原地区公民館でレゴ・ワークショップを開催しました。このワークショップは、昨年度、定住促進を考える住民ワークショップの中で議論された地域の課題をもとに、子ども達だったら未来のまちをどう描くのかレゴブロックで表現してもらおうと、ふるさと大浦安青少年育成会が主催し、総合事務所や当研究所が協力しました。



未来のまちの作り方について説明



レゴブロックで思い思いのまちを表現

当日は、東頸中学校1年生の有志12人が「未来の交通」「未来の遊び場・学び場」「未来の農業」「未来のレストラン」をテーマに「10年後、20年後にこの地域がこうなっていたらいいな」という姿をイメージしながらレゴブロックを組み立て、最後にそれぞれの作品のコンセプトを発表しました。

90分の作業時間はあっという間に過ぎ、大島区のほたるをモチーフにした車や浦川原区で獲れた野菜を使った自然豊かなレストランなど、各地域の資源を活かした様々な作品ができあがりました。



作品の例（未来の遊び場・学び場が完成！）



作品を前にみんなで集合写真

参加者からは「自分の住むまちの未来を考えることができて良かった。想像した物をレゴブロックで表現することも楽しかった」「もっと大きなまちをみんなで作りたかった」などの声がありました。子ども達の作品に刺激を受け、今度は大人たちがまちづくりをどう考えていくのか、今後の展開に期待です。

Topic 02

【大島区】移住定住につながる情報発信策を検討しています



第3回プロジェクト会議での検討の様子



班ごとに取り組む内容を発表

大島区では、昨年度のワークショップメンバーを中心に「いいね！おおしま☆むらづくりプロジェクト会議」（略して「むらプロ」）が7月に立ち上がり、まずは定住促進に向けた情報発信策を中心に検討を進めています。【No.1 参照】

8月22日（木）の第2回会議では、「移住定住するために必要な情報や仕組みは何かを探る！」と題し、区内への移住者をお招きしました。ここでは、①地区を知る、②移住を考え始める、③移住を決断、④移住後の各段階で「これがあって良かった」「これがあれば良かった」ということをお聞きしました。その後、地区としてどのような情報や仕組みがあったら良いかをみんなで検討しました。

10月29日（水）の第3回会議では、移住定住に役立つ情報をまとめたポータルサイトの構築を目標に設定し、「暮らしの手引き班」「デジタルマップ班」「イベント企画班」に分かれて具体的な取組の検討を始めました。今後は班ごとに活動を行う予定です。

今年度から新たなメンバーを加え、和やかな雰囲気の中で大島区の未来について語り合っています。当研究所では、国内の事例紹介や進め方の提案など、学び合いや話し合いのサポートを引き続き行います。

Announcement

上創研シンポジウム2024を開催します

当研究所の取組紹介やゲスト講師を招いての講演会などにより、まちづくりについての学びや交流を深める機会としていただくため、シンポジウムを開催します。

日時：令和6年12月5日（木） 午後3時30分～午後8時

場所：ミュゼ雪小町 ギャラリーA～C（上越市本町5-4-5 あすとびあ高田5階）

内容：第1部 午後3時30分～午後5時30分

- ・基調講演 湯浅 誠氏 「地域をつなぎ、居場所をつくる子ども食堂」（仮題）
- ・湯浅氏と藤山所長によるトークセッション

第2部 午後6時～午後8時

- ・創造行政研究所の取組紹介

申込：上越市電子申請システムをご利用いただくか研究所へお電話ください。（定員100名）



↑お申込みはこちらの二次元コードを読み取ってください

「広報上越11月号」の特集記事に当研究所が紹介されています

職員が恥ずかしくなるくらいの雰囲気に仕上げさせていただきました。ぜひご覧ください。



↑二次元コードを読み取ってご覧ください